

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071501060
法人名	社会福祉法人 東翔会
事業所名	グループホーム ふぁみりえ
所在地	福岡県大牟田市沖田町492 (電話) 0944-51-3875

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成20年5月20日	評価確定日	平成20年6月4日

【情報提供票より】 (平成20年5月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 4月 1日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	24 人 常勤 21人, 非常勤 3人, 常勤換算 22.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋平屋(準耐火) 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000~68,200 円	その他の経費(月額)	400 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成20年4月30日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	7 名	要介護2	7 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 81.5 歳	最低	73 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東原整形外科病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

公園に面した広い福祉施設の一角にある事業所は、利用者の生活に配慮した和風平屋建てで、落ち着いた穏やかな安らぎを醸し出している。全ての居室からの眺めと庭の草花の風情は心和む日々の散歩コースとなり、利用者の心身機能の回復に貢献している。福祉先進国デンマークとの研修交流を日々のケア実践に活かし、地域・行政へ情報を発信し、主催する認知症研究会編集の認知症理解のための絵本がドイツへ紹介されるなど、更なる活躍の場を広げている。事業所を上げての社会福祉貢献の取り組みや、利用者尊厳のノーマライゼーションケアを目指し、今後の発展が大いに期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価課題は全職員で話し合い、改善シートを作成し、日々チェックの確認をするなどの取り組みを行い改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で意見を出し合い意見シートを作成し、それを更に話し合い意見を反映させながら、日々のケアを見直している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的開催し、利用者やサービスの実態、自己・外部評価を報告し意見やアドバイスを貰っている。利用者に分かりやすい掲示や利用者が独りになれる居場所作り等アドバイスを貰い、サービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	3ヶ月に1回事業所便りを発行し、手渡ししか送付している。利用者の近況・行事・職員の異動を知らせたり、研修報告も行って。メールか手紙・写真も3ヶ月に1回送っている。金銭管理については、個々の出納簿を1ヶ月に1回、家族に明示し領収書を渡している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内・自治会に加入し、地域の清掃や学校行事に参加している。小学生・保育園児の訪問もある。学生ボランティア・実習生を受け入れ、日曜茶話会・ネットワークづくりを行い、地元地域との交流を積極的に行っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の尊厳を最大限に尊重し、その人らしい人生の継続ができるよう、地域に理解を得て共に歩き支えあうまちづくりに貢献していく事業所独自の理念を、全職員で作りに上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンスや会議・勉強会・新人研修等の際に、職員で理念や方針を話し合い共有し、実践に向け日々取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内・自治会に加入し、地域の清掃や学校行事に参加している。小学生・保育園児の訪問もある。学生ボランティア・実習生を受け入れ、日曜茶話会・ネットワークづくりを行い、地元地域との交流を積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で意見を出し合い意見シートを作成し、更に話し合い意見を反映させ、日々のケアを見直している。外部評価は管理者が改善課題を全職員へ伝え、改善シートを作成し取り組み、浴室・物品置き場の清潔清掃は改善している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、利用者やサービスの実態、自己・外部評価を報告し意見やアドバイスを貰っている。利用者に分かりやすい掲示や利用者が独りになれる居場所作り等アドバイスを貰い、サービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市より視察・研修・見学・行事等の依頼があり常に行政と協働し行き来している。介護教室・行政事業を受託し、市の認知症研究会・認知症コーディネーター育成の指揮をとっている等、行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用開始時に本人・家族に制度について説明し、家族会でも話している。職員は外部・内部研修を受講し、必要時には詳しく説明・活用できるように支援している。テキスト・研修記録・報告書がある。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月に1回事業所便りを発行し、手渡しで送付している。利用者の近況・行事・職員の異動を知らせたり、研修報告も行っている。メールか手紙・写真も3ヶ月に1回送っている。金銭管理については、個々の出納簿を1ヶ月に1回、家族に明示し領収書を渡している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を定期的開催し、意見を聴くようにしている。また、意見箱を玄関に設置している。女性利用者の家族より整髪とお洒落について等の意見があり、適切に対応し、サービスに活かしている。第三者苦情窓口・相談窓口は繰り返し家族に説明している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	勤務の希望を勤務表に活かす等して、異動や離職を最小限に抑える努力をしている。ユニット間の交流を日常的にし職員に馴染んでもらい、やむを得ず代わる場合は、引継ぎ期間を適宜取り、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集・採用にあたっては常に公平性を持ち、性別・年齢で排除しない。配置・教育訓練・定年など差別無く、個々の個性・キャリアを考慮し、誰もが安心して生き生きと働きながら社会参加や、自己表現できるような職場作りを行っている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人代表・事業所長・全職員は人権教育に関する外部・内部研修に参加し全員で共有し、啓発活動を行っている。テキスト・研修記録・報告書がある。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に学ぶ事を推進し、新人は段階に応じて働きながらトレーニングし、内部・外部研修等を状況に応じて受講させ職員を育てている。運営者は職員育成の取り組みや方針が明確で、資格取得への勉強会も行なっている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会や地区ブロック会に加入し、運営者・事業所長・職員は同業者と交流、サービスの質の向上に努めている。認知症ケア研究会を通しネットワーク作りを率先している。近隣同業者とは、月1回程度交流し勉強会をしている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人・家族に見学・体験して貰い、馴染んでから利用して貰っている。また、職員が自宅訪問している。即利用の場合は家族に1週間居て貰ったり職員の声かけを多くして、徐々に馴染めるよう家族と相談ながら自宅の環境に近い居室作り等の工夫している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<input type="checkbox"/> 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の気持ちを大切に、料理・習字・諺・生活の知恵等を日々教えて貰い、共に暮らす同士として共感し、優しく労わり支え合う関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の言葉や表情・行動から思いや希望・意向の把握に努め、真に求めているものを考え確認している。意思の表出が困難な利用者には、家族・関係者から情報を得るようにし、思いの適切な把握を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<input type="checkbox"/> チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・担当職員を中心に、他の職員や関係者（理学療法士）の気づきや意見・アイデアを反映しながら、本人本位の一人ひとりの介護計画を作成している。本人・家族から了承のサインや押印がある。		
19	39	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回見直している。また、利用者の状態変化や状況に応じて随時、関係者と話し合いカンファレンスを行い、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<input type="checkbox"/> 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や送迎は基本的には家族にお願いしているが、職員が付き添うなど必要な場合は柔軟に対応している。また、早期退院に向けての支援を医療機関・家族と連携して行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医への受診を支援している。かかりつけ医と連携を密にし関係を築き、情報を共有し、家族と受診支援の方法も話し合って合意を得ている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や見取りの支援指針を作成している。また、利用時や折に触れて家族に説明している。本人、家族の意向を最大限尊重し大切にして、かかりつけ医、職員で話し合い、合意を図り全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳を常に念頭に置き、言葉かけや排泄時などさり気なく目立たない支援を日常的に意識化するよう留意している。居室入室の際も配慮しプライバシー確保にとり組んでいる。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	基本的に1日の流れはあるが、一人ひとりの「その日」「その時」の希望に寄り添いながら散歩・買い物・裁縫・生け花など柔軟に対応している。業務に合わせることはなく、利用者のペースで行なう支援を心がけている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の調理・盛り付け、後片付け等を一緒にし、同じものを同じテーブルで会話を楽しみながら、食事を楽しんでいる。ユニット毎の献立で嗜好への配慮・工夫がある。週に1度、食材購入から調理まで利用者が主役で行う日があり、職員は支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴時間の設定はあるが、利用者の希望・体調に合わせて柔軟に支援している。入浴拒否の場合は、時間や職員を代え、音楽を流したりする等工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりのできそうな事の把握に努め、利用者は、料理・畑仕事・裁縫・マージャン・生け花・習字・絵等に力を発揮している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調を考慮しながら、事業所周辺や公園まで毎日散歩している。家族と一緒に外食したり、戸外での食事も行っている。買い物は週1回食材を買いに出かけている。ドライブは遠出を含め月1回程度行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中施錠は行っていない。職員は利用者の外出傾向を把握し、見守りと連携を行っている。地区人情ネットワークに「見守り声かけ」を常日頃から依頼し、連絡して貰える関係を十分に築いている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署・法人施設・事業所・地域住民の合同防災訓練を春に行い、秋に法人・事業所・地域住民との訓練を行っている。マニュアルを作成、連絡網・避難場所や経路を全職員周知している。非常食や飲料・備品は準備している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量・水分摂取量を全員記録して把握している。管理栄養士から専門的助言を貰っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掘り炬燵・ソファ・花など、一人ひとりが楽しむスペースや・共用の空間作りが適切で居心地よい工夫がある。不快な音や光もなく換気への配慮も行っている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの鏡台・家族の写真・仏壇・筆筒・ソファ・椅子・絵・植木鉢等を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※ は、重点項目。